

企業、中長期的視線を

日本銀行水戸事務所長

上野 淳氏



「昨年、県内景気は。大きな流れとしては持ち直しつつあったが、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けて、その足取りは重い1年だった。海外経済の回復で輸出、生産が増加し、4月以降、基調としては持ち直しつつあるという総括判断を維持した。一方、感染拡大を繰り返す中で個人消費への下押し圧力が続き、輸出・生産も部品供給不足の影響を受けた」

「今年の展望は。」

「基本的には感染症の影響が徐々に和らいでいく中で改善していくと見ているが不確実性は極めて大きい。2回のワクチン接種が進み、抑えられてきた需要が出ることで個人消費の持ち直しが期待できる。世界的にデジタル需要が堅調で輸出、生産の増加も見込まれる。ただ新変異株など感染症の影響は不確実性が大きい。部品不足や物流停滞といった供給制約の拡大や長期化には注視が必要だ」

「県内企業の課題は。少子高齢化や脱炭素化などを受けた中長期的な環境変化への対応を進めていく必要がある。コロナ禍で短期的にも大変だと思いが、中長期的な視線を持ちながら着実に課題に対応することが、企業の将来に大きな影響を与える」